高齢者、生きがい生活への提言

１９９６．１２．１３
（株）毎日リネンサプライ
佐　藤　高　生

高齢者、ここで言う高齢者の対象者は、現在社会の一線で働いている者が、ここ数年で経済社会活動をりタイヤして年金生活に入ろうとしている者、又は現在の年金生活者を言う。

現在、我が国は世界に類をみない高齢化社会に向かっている。平均寿命がのび、子供が少ない核家族化が進む中、高齢者・高齢者予備軍が豊かで安心し且つ健康で暮らせるようにするには、どのようにすれば良いか、行政（年金）の行き詰まりをも踏まえ　私たち個人個人が考え生活する為に一つの提案として、農業（いなか暮し）を考えてみた。

提案　その１

年金生活者が年金収入のみで、健康で楽しく生きがいを持って暮らすことが出来れば、それにこしたことは無いが、年金だけでは心もとない人々が大半であると考える。又、子育てを終え夫婦二人が健康で楽しく安定した生活を望む人々の為に、空気の良い静かで趣味と実益を有するる農業（いなか暮し）を考察してみる。

〇社会法人の設立

出資金は希望者を募り、一人：20～30 万円位とする。（出資人数は多い程良い）
その資金により、東海三県下くらいの町村のネットワークを作る。
個人の理想の場所を提示案内をする。（出資者：無料、その他：有料）

①空家、農地等の斡旋（販売ｏｒ貸地権等）
②建物（住居、小屋等）の斡旋　（住家が無い場合）
③農業の指導（その地域の高齢者、又は農業経験者）の斡旋
④農作物販売斡旋　ネットワークを使用し近郊の個人に販売する→一部収入源となる。
⑤地域の人々との交流をアドバイス（年間行事・祭・郷土文化等）等を法人でバックアップする。

意　義

①第二のふる出を作り、高齢者が相互扶助を計り楽しく健康で暮らせ、一部収入を求められる事。
②住家を少し大きくしておけば、その時節のくだもの・野菜等新鮮な物を家族親戚・友人・知人等に泊って頂く事により、人的交流も計れ農作業の励みにもなる。（一部有料を考える。民宿にすると法的に難しいので、謝礼程度の実費

をいただく）
長期滞在をふまえる。（その地域の特長を生かし、長期滞在方レジャーも考慮）
③子供の情操教育に貢献出来る。（特に孫など）

提案　その２
（第二段楷として）
提案その１を拡大解釈して、法人の組織化をはかると井にネットワークを拡大して、農業のみならず、手工芸等日本の伝統的な物で経済価値のなくなる物にも、着眼して考える。又、一芸に秀でた人も含め、いなか暮しを提唱し募集を計る。

意義・効果
①特技を持った人々が村に集まる。文化交流も活発化する。
②農作物の販売先が出来る。（物々交換的な考えも出来る）
③一芸に秀でた人が集まれば、都会交流も可能。（見学者、技能習得を欲する人、講演等で人々が集まる）
若者等の交流も可能になり、村の活性化に貢献出来る。
④活性化につながれば、町村とタイアップして交流センター・文化会館・病院宿泊施設等、公的設備の拡充が計れる。
⑤日本の伝統的文化技術、職人等の継承が容易になる。

以上のような提案で、高齢者が自立した生活ができれば最高であるが、そうはいかない夢でしょう。
年金の一部分（大半？）を生活費に当て、趣味やボランティア活動も良いが、生産する喜びがある方が、より人間的ではないかと思う。社会的経済効果は期待出来ないが、昔に戻ったような村社会が形成され、それによって高齢省が生きがいを持った明るく楽しい生涯が送れれば良いのではないでしょうか。
又、これらを通じ、都会の人々や老若男女が交流出来るようになれば、経済的価値観は別として、人間性の価値観が生まれれは最高ではないでしょうか。少なくとも、何もしなくてもよい公的老人ホームに入所するよりは、意義や価値があるように思われる。